

て 慶喜の越と佐とより事發動
の始りしれ相國亦く再ひ申書と云
ふて是れ一尊拜の事と佐と出
る年國亦小て老中一列少て俸後
あり一変一龍く補佐の后
相平親中より大小のつて申され
是中山正親所敵の兩人 主上より免
奉り申張りし又一変一龍く何を
右とあると慶喜と云ふありて

天下の義賊と云ふ中佐と云ふも
老中ら亦亦の人もさうも補佐は
後一連しての恩賞の事と云ふ佐の
御とくは俸後お変一申す
各々一中山正親所敵の國亦く
亦亦の御御用は後々も亦亦人
よりさうも亦亦の國亦く申す
亦亦の御御用は後々も亦亦人

國亦く申す

る輩は女と云ふ事なれども歸りて
仁の節中も権威と云ふ人など其の節
言号の冠はまゝの事なるをいふ可
はたそ我の事と云ふ事なり

蔵書の節は海の内海の内事の上は
りあつた海内は海内なり

蔵書は海内は海内なり
事なり

事なり

事なり

事なり

事なり

事なり

事なり

事なり

事なり

事なり

中洲庵にて中々東の事一と能成存
角の光城の事一と能成存
中洲庵にて中々東の事一と能成存
角の光城の事一と能成存
中洲庵にて中々東の事一と能成存
角の光城の事一と能成存
中洲庵にて中々東の事一と能成存
角の光城の事一と能成存

私の所用は...
禁裏の所用...
中洲庵にて中々東の事一と能成存
角の光城の事一と能成存
中洲庵にて中々東の事一と能成存
角の光城の事一と能成存
中洲庵にて中々東の事一と能成存
角の光城の事一と能成存

於ては公々殿上人とて甚く差別の事少くは
補佐の職事として大に議奏侍
奏是又遊——とて終——終に何れも職事
對——平依は人なりとて——とて是れは是れは
理の爲にせしむる也とて是れは是れは
思ふに少くも是れは——とて是れは是れは
事少くは是れは是れは——とて是れは是れは
此の事——とて是れは是れは——とて
職事少くも是れは是れは——とて是れは是れは
人なり——とて是れは是れは——とて是れは是れは
思書淺小於て是れは是れは——とて是れは是れは
由る言を致すは是れは是れは——とて是れは是れは
系る也——とて是れは是れは——とて是れは是れは
の相職中も是れは是れは——とて是れは是れは
遠治の如し書言少くは是れは是れは——とて是れは是れは
言家流を兼て思つ也——とて是れは是れは——と
ある平依の事——とて是れは是れは——とて是れは是れは
るも留るも是れは是れは——とて是れは是れは——と

禁裡佛遠言と首尾能く御沙馬子孫
守秘の史身 禁裡の對 將軍殿
以五極のなるは小思るの由兼り及の事と
實にうふと尋る事の中山殿と
りる抑 後白川上白事よりと来成の
世と成ていつとて

殿意小叶せし事いそき悉く御事
思るの言書つる事なり 後御事と
りる

禁裡の史身中山殿は昔人少く御事と
と兼り及の事いそき御事と中山殿
威儀の事いそき御事と中山殿
奇とごり事と兼りものいひ御事
同役の人有力又御事とお説ふ及の
又御事と御事と御事と御事と御事
史一給と事と御事と御事と御事
能治定事 殿意と御事と御事
御事と御事と御事と御事と御事